

「神戸市自転車活用推進計画」(案) に対する意見の内容及び意見に対する市の考え方

※ご意見の内容は趣旨を損なわない程度に要約しています。

意見の概要		意見に対する市の考え方
計画全般について		
1	<p>自転車は楽しい乗り物なので、3つの柱の一つに「楽しむ」が入っているのはとても良いと思う。ただ、自転車を楽しむには走る環境の整備が重要だが、整備には時間がかかると思うので、安全性を高めるための教育、啓発にも力を入れて欲しい。特に車のドライバーへの教育・啓発として、警察と協力し、免許更新時にしっかりと意識付けをして欲しい。</p>	<p>ご意見いただいた車のドライバーへの教育・啓発については、施策3の取組み内容(措置)に、「警察と連携した自動車免許更新時等の車のドライバーへの啓発活動」について記載しており、今後実施に向けて、警察に働きかけていきます。</p>
2	<p>今、5GやAIの時代が始まろうとしている。例えば、スマホを使ったスタンプラリーや、交通ルールを守って自転車に乗っているかを判定して何らかのメリット(ポイントなど)とつながるような仕組みや、状況に応じて危険予告や注意喚起をしてくれる仕組みなど、新たなデジタル技術などを活用して、より自転車の楽しさや安全性が高まり、活用が進むような方法も考えて欲しい。</p>	<p>施策5に記載のとおり既存のスマホアプリを活用しつつ健康や環境の視点で自転車活用することについては、引き続き検討していきます。</p> <p>また、スタンプラリーやポイント制の導入など、さらなる自転車の活用に向けた仕組みづくりについては、新たなデジタル技術の活用も含め研究していきます。</p>
総則 神戸市の自転車利用の現状と課題について		
3	<p><本市の自転車分担率> 神戸市の自転車分担率は7%となっているが、神戸市は東西に長く六甲山に挟みそれに寄り添うように発達してきたという客観的・地形的な事実から他都市と比較して平坦地が少ないためであるということを加筆した方がよい。</p>	<p>自転車分担率についての記載の直前に、「(1)本市の地勢」を追加し、「本市域は、標高931mの六甲山を主峰とする六甲山系により大きく二分され、大阪湾に広がる南側に細長い山麓台地と海岸低地で構成される既成市街地からなる地域特性を有している。」と、図等とともに記載しました。</p>

意見の概要	意見に対する市の考え方
施策1 安全・快適な自転車走行環境	
<p>4 <スポーツタイプの自転車（スポーツ自転車）利用者からみた自転車走行空間></p> <p>自転車レーンは、青色の舗装と「自転車専用」という文字と矢印が書かれているが、白線の段差でハンドルを取られそうになり、危険を感じることもある。スポーツ自転車で通行すると白線の少しの段差でも跳ねてしまうので、文字を記入する部分は、中央に20～30 cmほど開けるように書くと安全に走れる。</p> <p>車道の端にある、自転車レーンでは問題はないが、歩道の一部を整備する場合は、平坦性を重視して欲しい。特にスポーツバイクの特性上から、平坦でないと、走行するのに危険である。</p> <p>自転車道を整備する際に、バイクの侵入対策を行うのであれば、自転車から降りなくても通行できるような、形状にしていきたい。</p> <p>※スポーツタイプの自転車の特性・・・ 車体の重量が軽く、タイヤの空気圧も高く（固い）、比較的スピードが出る。また、ペダルに靴が固定されている場合が多い。</p>	<p>自転車レーンの文字（白線）の段差により、スポーツ自転車が走行するのに危険となることについては、仕様等の工夫も含め、今後、整備の検討を行っていくうえでの参考とさせていただきます。</p> <p>また、歩道上で自転車走行空間を整備する場合は、あわせて歩道の平坦性を確保する工事を行っている事例もあります。歩道上を走行される際は、歩行者に十分留意されるようお願いいたします。</p>
<p>5 完全な自転車道でなくても、車道の側溝部がアスファルトになるだけでも走りやすいので、簡易な形状で安価で広く進めることを検討して欲しい。</p>	<p>本市の自転車走行空間の整備については、自転車道の整備を理想としているものの、全ての道路で整備することは難しいことから、整備形態については、今後望ましい自転車走行空間の実現に向けた選定基準の整理に取り組んでいくこととしており、いただいたご意見も踏まえながら検討していきます。</p>

意見の概要	意見に対する市の考え方
施策2 駐輪対策の推進	
<p>6</p> <p>市街地にスポーツ自転車で行く場合、自転車を止める場所が無くて困っている。スポーツ自転車はスタンドが付いていないものが多いため、自立させることが出来ない。自転車の前輪を固定させるタイプの駐輪場では、ホイールが簡単に曲がってしまうため、使用できないので、街中にサドルを掛けるタイプのスタンドを設置していただきたい。</p>	<p>近年、スポーツ自転車の利用も増えていることから、そのようなニーズへの対応として、サイクリスト向けのサイクルステーションの設置も含め、今後検討していくうえでの参考とします。</p>
<p>7</p> <p><地域毎の駐輪ニーズに応じた駐輪場の整備推進について> 駐輪場の過不足が発生している問題においては、期間を定めてデータを収集し、分析していくしか方法はないと思う。</p>	<p>現在、2年に1度の国が実施する調査で、市内の駐輪場の利用状況・放置状況の実態調査を行っています。 依然として駐輪台数が不足している駐輪場については、増設や再配置に向けた検討が必要であることも認識しています。 今後は、調査結果の分析を進め、駐輪施策の展開について検討していきます。</p>
施策4 神戸の山・海・田園を楽しむ環境づくり	
<p>8</p> <p><神出山田自転車道について> ・北区ならではの自転車道としての魅力 本格的なロードバイク乗りにとって、六甲山系のサイクリングロードは、魅力的なので活性化して欲しいが、神出山田自転車道は、やや平坦かつ階段などで走りづらく、魅力に欠ける可能性があると感じる。 北区に愛着が無い人にとっても魅力的であるよう、単なる「走りやすさ」だけではない土地の魅力でエリア全体として活性化していくことが必要と感じる。そして一時の施策やハード面でのテコ入れでは、解決できず、住民側との協働で継続的に回していけると思う。(立ち寄りスポットの魅力発信やバイクスタンドの設置などによる地域全体での自転車歓迎ムード等) 北区は、農村と言えど、交通量や大型トラックが多く、走りやすい道を作るのは難しいかもしれないが、北区全域が自転車で様々に楽しめるエリアになれば良い。</p>	<p>神出山田自転車道が、ロードバイクも含め、小さなお子様や普通自転車の利用者等すべての自転車利用者に愛着を持って楽しんでいただけるよう、大規模なリニューアルや「BE KOBE」モニュメントの設置などの魅力向上に取り組んでいるところです。なお、階段により走行しづらいことについては、地形的な制約により、対応に限界がありますので、ご理解ください。 そのような中、神出山田自転車道の活性化については、訪れた方々が楽しめる自転車道となるよう、ご意見のとおりにハード面だけでなく継続的に活用可能な仕組みづくりについて、地域や民間事業者、市の関係部局とも連携しながら、引き続き取り組んでいきます。</p>

	意見の概要	意見に対する市の考え方
9	<p><神出山田自転車道について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北区民が自転車で北区の魅力を知り、住む人を増やすこと <p>神出山田自転車道の魅力として、平坦な短いコースであれば、子供から楽しめるといふ魅力がある。少し長い距離、六甲山とレベル毎に様々な楽しみ方が出来るのが北区のコースである。</p> <p>20代前半まで北区の住民だったが、淡河や大沢の魅力はここ1年で知った。北区外から人を呼び込むだけでなく、北区の住民が子供の頃から楽しめて、北区の魅力スポットを回れるような広域の自転車エリアのようなものがあれば、子供の頃から幅広い北区の魅力を知ることが出来、愛着を持ち、将来的に住み続ける人が増えることにもつながると思う。</p>	<p>ご提案いただきました北区の魅力スポットを回れるような広域の自転車エリアについては、地域や民間事業者、市の関係部局との連携が必須であると考えており、今後、施策を進めるうえでの参考にさせていただきます。</p>
10	<p><神出山田自転車道について></p> <p>本市唯一のサイクリングロードは、大規模な改修工事によって、以前と比較して非常に改善された。今後は更に大胆な方法で対処していくことが大切だと思ふ。</p>	<p>神出山田自転車道は、平成30年度から2か年かけて舗装や案内看板等の大規模なリニューアルを行いました。また、市民や来訪者に愛着を持っていただけるよう、「BE KOBE」モニュメントの設置を進めています。</p> <p>今後、長期的に市民や来訪者の方に楽しんでいただけるよう、地域や民間事業者、市の関係部局とも連携しながら魅力向上と活性化に取り組んでいきます。</p>
11	<p><六甲山のサイクリングスポット></p> <p>週末にはすでにヒルクライマーが訪れており、彼らが楽しめる工夫だけでなく、SNSで発信される仕掛けがあれば、六甲山のさらなるプロモーションにつながる。神戸らしい創意工夫を期待したい。</p>	<p>六甲山でのヒルクライムをすでに楽しんでいるサイクリストだけでなく、潜在ニーズをほり起こすことも重要と考えています。</p> <p>今後、自転車活用の観点で六甲山のさらなる活性化につながる神戸らしい創意工夫ができるよう、地域や民間事業者、市の関係部局とも連携・協力しながら検討していきます。</p>